

日本の文化は

佐賀大学教育学部附属中学校3年 岩本 薫楠子

私は日本の文化が好きだ。そのきっかけとなったのが京都の写真だ。その絵には古くからの外観や、趣深い民宿。暗い夜に行燈の柔らかい光が照らす石畳。その上を下駄でコツコツと音を鳴らしながら歩く舞妓さん。この日本ならではの風景が好きだが、実際に京都に行ったことはなかった。だが今年の四月、私は修学旅行で訪れることになった。私はとても嬉しかった。修学旅行2日目、念願の京都を訪れた。しかし私は京都について「ここは京都なのか」と目を疑った。私が思い描いていた日本の文化の真髄「京都」の姿はどこにもなく、近代的なビル、過剰なバスの数。ヒートアイランド現象のせいか四月の割には暑く、合服で京都を観光するのは想像以上にきつかった。京都駅から出発し、東大寺や清水寺などたくさんの寺、神社を訪れた。私は、「どうやって京都という都心で神社などの古くからの日本の文化を守っているのか」が気になった。

修学旅行後の社会の地理の授業で、京都では日本独自の文化・外観を守るために条例が定められていると知った。例えば電柱を地下に埋めたり、コンビニの鮮やかな色を和風の外景に合うようにくすんだ色にしたり、ビルの高さを制限している。しかし修学旅行で訪れた清水寺は私が写真で見た清水寺から修理されているようだった。いくら修理されているものとはいえ、そのものが今まで残っているものはほぼないと思う。その工事費はどこからきているのか気になって調べてみた。それは税金からだった。詳しく言うと国家予算には「文化予算」と呼ばれその国の文化や芸術を保護したり、復興したりする政策や事業につけられる予算がある。二〇二三年の総額は一三五〇億。二十二年度対比で二十・五%も増えたという。その税の使い道は「国宝・重要文化財美術工芸品保存修理抜本強化事業」など、さまざまな案・事業が考えられており、中には施行されているものもある。その一つの例として「国宝・文化重要文化財美術工芸品保存修理抜本強化事業」を紹介する。国宝重要文化財美術工芸品保存修理抜本強化事業とは国宝・重要文化財に指定されている美術工芸品で紙や木、絹、漆など我が国古来の繊細かつ脆弱な素材で造られているものを適切な保存修理等で施したり、文化財は火災・盗難等によりいったん滅失毀損すれば再び回復することが不可能であるため、防災・防犯対策などにより強化する事業だ。この事業のおかげで私の大好きな日本の文化は守られてきたのだ。この事実を知ったとき、今まで税金を払っていたことが誇らしく感じた。税金を活用することで日本の文化が守られている。それだけではなく、その文化を多くの外国人の方に伝えることで経済が潤って、また税金が増える。つまり、税金の良い循環が生まれると思った。この素晴らしい日本文化を継承するためにも税金を大切にしたい。